

# 快挙

過疎地域自立活性化優良事例表彰において

## 谷自治振興会が総務大臣賞を受賞!!

地域づくりは自立の精神  
谷自治振興会会長澤田定成氏に  
インタビューしました



谷自治振興会  
会長 澤田定成氏

動に参加できない人もいるが、何年か先には一緒にやれると確信している。デマンドバスはどんどん利用者が増える状態といふのは決して良いとい

えない。利用者が多いのは交通弱者がたくさんいるということだ。事業の継続はこれから退職して地域に帰ってくる人たちも参加し担ってくれると思っている。

JAの撤退、保育所、克服して地域を守つてこられたが、どのような努力があったのか。

答

一番大きかったのはここに公民館(現公民館長永田一博氏)があ

つたことだ。常駐の担当者がいて支所の機能もはたしてきた。

旧谷小学校は先生や子

供や年寄りや地域の人々

かかわりを持っていて、

目に見えない力を持つて

いた。谷笑学校に衣替え

したが、元の小学校のよ

うに地域の人が深い係わ

り合いをもてる施設にな

ればよいと思っている。

しかし、やれるところ

までは自分たちでやって

いく考え方だ。どうしても

出来ないところを支援し

て欲しい。だからあれも

これもやってくださいと

してきた。

しかし、やれるところ

までは自分たちでやって

いく考え方だ。どうしても

出来ないところを支援し

て欲しい。だからあれも

これもやってくださいと

してきた。

答 求めることはたくさんある。事業のためには色々な補助金の申請をしてきた。

しかし、やれるところまでは自分たちでやっていく考え方だ。どうしても出来ないところを支援して欲しい。だからあれもこれもやってくださいと言つもりは無い。

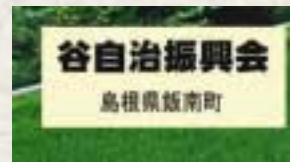
金があって動くのか、動くから金が必要のかだが、金のためにやらされる事業はやりがいを感じない。

自分たちで努力してこそ達成感を味わえる。行政は若い人たちがやる気を出すような金の使い方をして欲しい。

飯南町議会は8月1日、議員で頑張っています。“親しまれる広報づくり”に精一杯努力しております。町内は、ほぼ稲刈りが完了の様子であります。台風に見舞われ稲の倒伏には心を痛められたことと存じます。生産者米価が少しでも上昇すればと希望しつつ、また、安全に秋作業が完了となることを祈念して、あとがきといたします。

議会広報編集委員会も新メンバーとなり、町民の皆様に頑張っています。議会広報編集委員会も新メンバーとなり、町民の皆様に頑張っています。“親しまれる広報づくり”に精一杯努力しております。町内は、ほぼ稲刈りが完了の様子であります。台風に見舞われ稲の倒伏には心を痛められたことと存じます。生産者米価が少しでも上昇すればと希望しつつ、また、安全に秋作業が完了となることを祈念して、あとがきといたします。

## 編集後記



—四季折々の渓谷に神楽音色里—

答 次々と先進的な事業に取組まれている。  
事業継続の秘訣は何か。

答 谷地区は60歳以上が半分よりちょっと多い。若い人は少ないようだが、バランスがいい。中心となって活動している50代60代は若いときから色々な活動に参加している。

ひと声掛れば、10人や15人はすぐに集まって、よしやるぞという体制が取れる。若い人は今は活

けで活動を引き継ぐ。神楽

がいい例だ。

問 小学校の統合などを克服して地域を守つてこられたが、どのような努力があつたのか。

答 デマンドバスの維持費や運転者への謝礼は、住戸いくら負担して欲しいとは言いにくい。県や町からの補助や視察料が主な財源だ。

運転者は仕事の都合を付けてどうにか回つていけるが、喜んでもらえることが力になつていて。

父親が一生懸命活動している姿を見てきた子供たちが、やがて帰ってきて活動を引き継ぐ。神楽

議会広報編集委員会  
瀧尻 行雄



今号の編集会議